

中津市溝部・槻木地区

(大分県中津市)

計 画 期 間 平成 18 年度 ~ 22 年度

面 積 804ha

交付対象事業費 344.4 百万円

市人口 85,661 人 (地区内人口 776 人)

ポイント

- ・ 廃校を活用した住民が安心して住める医療・交流拠点の整備
- ・ 源流の自然を感じながら、歩いて楽しい観光拠点づくり
- ・ 廃校・空家等の活用と生活道路の整備による地域再生

地区概要

源流域の渓谷美を活かした親水空間の整備により観光客等を誘致し、まちの活性化を図る。併せて医療交流拠点、道路等を整備し高齢者にも住みやすい環境を提供する。

目 標 人と自然が共生するところ豊かなアメニティタウン

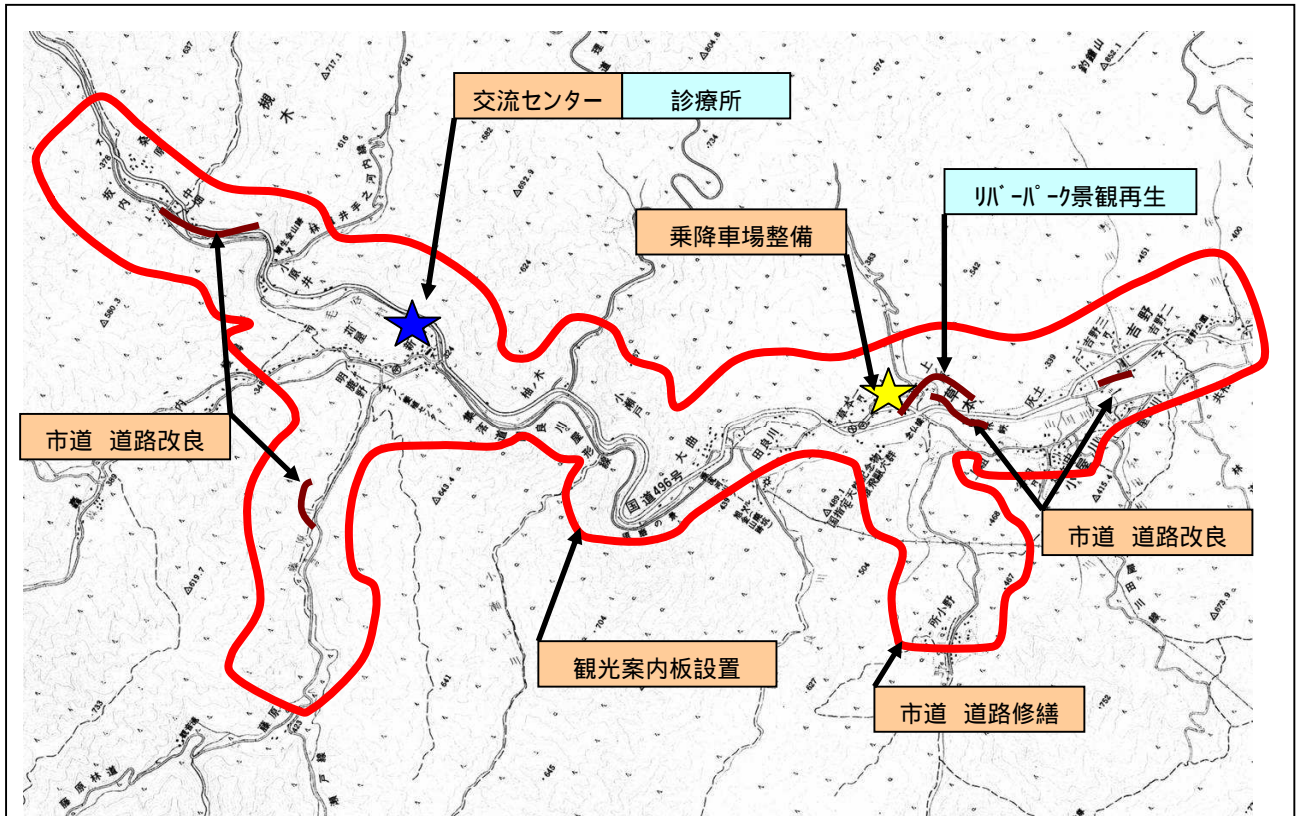
指 標

地区内の経済の活性化となる観光開発、交流人口の拡大。高齢者が安心して住める居住環境づくり、コミュニティ活動支援。
利便性向上と活力ある地域再生を図るための生活道路の整備。

観光客数	75,800 人 (H16)	85,000 人 (H22)
交流センター来客数	3,700 人 (H16)	5,000 人 (H22)
生活環境満足度	3.0 ポイント (H16)	3.5 ポイント (H22)

事業内容

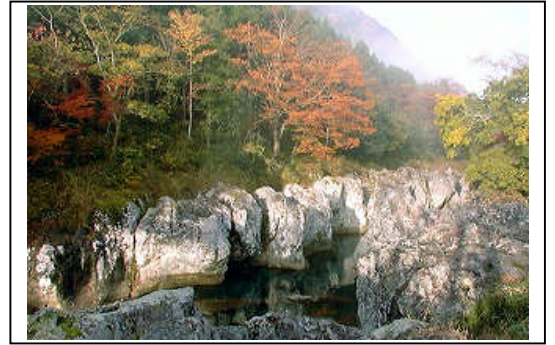
基幹事業 (258.0 百万円) 道路 (幅員 5.0m、延長 2,843.1m) 乗降車場 (A=1,210 m²) 観光案内板設置 (N=4 箇所)、交流センター (1ヶ所、238.90 m²)
提案事業 (86.4 百万円) 診療所 (1ヶ所、214.68 m²) 川・パーク景観再生事業 (修景 2,474 m²)



地区の現況と課題

この地区は、過疎化の進行により人口が減少し、高齢者のみの世帯の比率が高くなってきています。そこで、地区内の生活環境や福祉・医療のサービスの向上により、人口減少に歯止めをかけ、心豊かな暮らしを享受できるまちづくりが求められています。

また、この地区には国指定の天然記念物である猿飛千壺峡や魔林峡などの名勝を有しているものの、滞在型の観光施設とはなり得ていません。この地区内に分散した観光資源を結びつける仕掛けづくりや四季を通じた魅力ある観光施設の整備により、通過型から滞在型へ転換し、観光客の増加を図る必要があります。



猿飛千壺峡

基幹事業の特徴

観光の拠点の整備と連携(道路整備・乗降車場整備)

天然記念物や名勝耶馬溪などの自然景観資源を有するアメニティリバーパークに駐車場整備や案内板を設置し、魅力ある観光地づくりを進めます。また、地区内の観光資源を繋ぎ、地域の利便性向上と活力ある地域再生を図るため、道路整備を進めます。



交流センター

交流センターでの活動の様子

住民が安心できる住環境の整備(交流センター)

地域コミュニティの拠点施設として交流センターを整備し、活力ある地域づくりを進めます。また、交流センター内に高齢者向けのミニデイサービスが可能な調理室・浴室を整備し、地域の交流の場として活用します。



提案事業の特徴

診療所の設置

地域の中心にあった槻木小学校跡地に、過疎地における地域医療を担う診療所を設置し、高齢化・過疎化のすすむ地域の医療確保を図ります。



診療所内部

アメニティリバーパークの景観再生

天然記念物や名勝耶馬溪を繋ぐ遊歩道に繁茂した樹木を伐採し、自然景観資源を巡る回遊型観光を目指します。



景観再生イメージ図

計画策定プロセス

市民との協働

平成16年3月に策定された新市建設計画において、新市として「『みず』と『もり』を守り、安心で安全で快適に住めるふるさとづくり」を掲げています。また、当該地域は、「人と自然が共生するところ豊かなアメニティタウン」という将来像を目指しています。

緑豊かな自然景観を保全し、地域コミュニティを活性化するため、交流センターの運営や観光資源の維持保全について、地域住民と協働した取り組みを進めていきます。